



昭和十三年

八月

一日

時局特報

(第三十五號)

極秘

臺灣總督官房外事課

主要資料名略號

	Canton Daily Sun. D.	C. D. S.
	China Weekly Review. W.	C. W. R.
	North China Daily News. D.	N. C. D. N.
	South China Morning Post. D.	S. C. M. P.
支 那	新 聞 報、 日、	新聞報
	申 報、 日、	申 報
	廣東七十二行商報、 日、	廣 商 報
	廣 州 共 和 報、 日、	廣 和 報
	Manila Daily Bulletin. D.	M. D. B.
比 律 賓	Philippine Herald. D.	P. H.
	Tribune. D.	T.
	Opinion. D.	O.
印 度 支 那	Courrier d'Haiphong. D.	C. d. H.
	Bangkok Times. D.	B. T.
暹 羅	Siam Chronicle. D.	S. C.
	Singapore Free Press. D.	S. F. P.
馬 來	Straits Times. D.	S. T.
	Bataviasch Nieuwsblad. D.	B. N.
蘭 領 印 度	Soerabaiasch Handelsblad. D.	S. H.
	Asie Française (Paris) M.	A. F.
	Economist (London) W.	E.
	France-Outre-Mer (Paris)	F. O. M.
其 他	London Times. W.	L. T.
	New York Times. D.	N. Y. T.
	Nieuw Rotterdamsche Courant. D.	N. R. C.
	Statist. (London) W.	S.

(備 考) D.- Daily, W.- Weekly

日.- 日 刊

支 那 一

- 一、海南島に對する日本の脅威
- 二、香港に在る愛國者

華 僑 一一

(馬尼刺)

- 一、福建攻略の尖銳化一七ヶ所より上陸の企圖
- 二、福建に傷兵運輸站三十一ヶ所指定さる
- 三、廣東市の保衛網鞏固
 - 一 正規軍の外に武装壯丁隊十數萬

華 僑 一七

(爪哇)

- 一、目前の戦局

臺灣總督府

比 律 賓 二二

- 一、日支事變一周年に際する
蔣介石のステートメント
- 二、風雲を呼ぶ北京地方
- 三、米國の支那援助
- 四、駐在獨逸顧問は「支那は戦に勝つ」と
- 五、楊子江の氾濫は支那軍に有利ならん
- 六、海南島に於ける支那軍の活躍
- 七、米國海軍、日本に痛棒
- 八、比律賓航空界の躍進



一、海南島に對する日本の脅威

日本の廣東省の南部海南島占領の脅威は南支那の明敏なる觀測者の意見に據れば西南支那に對する海軍根據地として及び一九〇一年までには起るかも知れない次の世界大戰に對する準備方法として企圖せられた。海南島は日本の侵略に對する抵抗のキポイントとして更に重要性を増しつつあるところの廣西省及び雲南省に對する絶好の作戰基地となるだらう。このことは西が現在戦線に五十萬以上の軍隊を供給しなほ百萬人を動員することが可能であるといふ事實により示されてゐる。

この重要性は河内昆明間の鐵道に歸する。該鐵道を通過し軍需品は海防を經由し支那へ輸送せられつつある。フランスは隨時該鐵道を經由する軍需品の通過を否定した。

臺灣總督官房外事課

けれども支那及フランス間の鐵道協定は支那の必要とする如何なる供給品の輸送をも豫見して居り、法律専門家はフランスがこの鐵道を經由する軍需品の輸送を拒絶し或る重要な武器を海防に抑止することはこの條約を蹂躪することになることを指摘した。海南島に日本が基地を獲得することは海軍による廣西と雲南省との爆撃を容易ならしめるだらう。

日本の巡洋艦及航空母艦は現在日本の占領下にある六箇の島嶼に利用することにより西南支那を攻撃することが出来るから海南島の攻略は軍事的見地からは必要ではない。それを占領し若くは占領せんと脅威することはフランス、英國、合衆國に對する準備的行動である。日本はフランスが印度支那をして支那への武器輸送通路たらしめることを攻撃し、フランス植民地領土に對する脅威として海南島を占領することを威嚇してゐる。

海南島が日本の支配下に歸せば香港及び新嘉坡の英國領地の

タイプライター用紙

全を脅かす。日本政府はまた英國が香港による武器の船舶輸送及び漢口までの鐵道輸送により支那人援助を與へることを非難してゐる。海南島の占領は新嘉坡、濠洲間の航路即ち極東に於ける英國の生命線を支配する。また日本を比律賓に接近せしめるだらう。海南島は棉、米、砂糖、ココア、護謨及び麻の如き農産物に富み、鐵、ウオルフラムの如き豊富なる礦物資源を有する。これらの原料品は日本に於て工業上及軍事上目的は大いに必要とせられてゐる。この島の重要性の見地から陳濟棠の世中、彼の廣東第一軍團司令としての權能に基き其處に防禦工事の設けられた。

旅長陳某が共產主義者を掃蕩し黎苗原住民種族を平定するため派遣せられた。それから彼は新防備施設を建設し、數線の公道を構築した。

日本の海軍陸戰隊が南部地方の如き有用な部分に上陸すること

臺灣總督官房外事課

は困難ではなからう。しかし奥地への侵入は相當な困難に遭遇するだらう。山中に機械化戰團に適しない自然の防塞がある。一方多くの洞窟及び深い峽谷は空襲に對する自然の避難所を與へるだらう。奥地の特に五指山の原住民は外國人に對し根強い憎惡心を有し少くとも遊撃戰團に於て頑強な抵抗を試みるだらう。

海南島は有名な支那金融家にして次の行政院長として呼聲の高い宋子文の故郷である。彼は昨年春海南島を訪れた。彼はこの島の産業及び建設計畫を立てるために行つたのであり、該計畫は現時の事變が發生しなかつたならば實行されたであらう。若し日本が海南島を侵略するならば國際的に論じて熱湯中に飛ぶ結果になることは明瞭であるやうに思はれる。

二、香港に在る愛國者

(六・二五一〇・D・B)

タイプライター用紙

多數の支那愛國者達が香港に集合し、香港の安全地帯から支那都市の防衛及支那が現在見られる如き猛烈さを以て行ひつつある時期抗戦に關連するすべての問題に就き毎日香港新聞紙欄を賑はしてゐる。吾人は毎日の新聞紙上に彼等の姓名があれやこれやの計畫の提案及び貧困な農夫労働者に對し彼等の爲め戦地に赴き戦ふことを勸奨する記事と共に麗々しく並べられてあるのを見る。

彼等は其の文筆の功績を誇つて居るのに相違ない。而して一方他人に對しては彼等に代つて聲に戦闘に参加することを期待してゐる。彼等多數はその財産と共に英領植民地へ移つた人間である。吾人は彼等がキャバレ・ホール・ホテルのテイ・ダンス・ホール、海濱及び其他の享樂の場所で豪奢を發揮して居るのを見る。吾人は此等の場所に於て彼等を見る時、支那政府の怠慢若くは過誤を批判しつつある此等支那愛國者は自國の運命に對

臺灣總督官房外事課

し無關心であるとの感想を抱く。彼等は支那が侵略者と死を賭して戦つて居ることを感じて居ない。その場所が戦争圏内から遙か後方にあり、香港の如き安全な避難所に居ることを殆んど感じて居ない。彼等は日本の爆弾及び支那政府の統制の何れからも安全であるから、叢の背後に隠れて射撃し、戦争問題に關し彼等の意見を吹聴することが出来るのである。

「彼等の一般的外觀」若し吾人が彼等と會談を交へるならば、吾人は一種特別な精神状態を彼等の間に見出すであらう。我々の心を打つ第一の語は彼等の中の誰も彼も自分は愛國心及び防禦方法に關する論文を書き續けて居ることが出来るのに自分を除くすべての他人に對しては現實の戦争に赴くことを期待することである。彼等は自身香港植民地の安全な距離に留まること出来るのに他人を戦争に驅り立てやうと期待して居る。この心算に於てさへ政府首腦部の誰彼との確執や意見の相違を主張

し。國內に於ける彼等の立場に對する辯解の機會を見出すのがある。恰も血を流すことなくして勝利を得られる戦争があるかの如くに、日本の大砲の砲口に支那の青年の血を提供する現存の戦争方法を非難するものさへ居る。彼等の態度は全然彼等が香港の如き安全な場所に現在有するところの財産はすべて之を保存するにある。そして戦争が終結した時、彼等の支那を擁護する愛國的著作を誇り得る爲、他人に對しては國土を防衛することとを要求して居る。

「彼等の義務」しかし單なる著述のみでは戦争に勝たないであらう。又他人に對し仕事をせよと要求することは終局の勝利を捷ち得ないであらう。列強を戦争に於て支那に加擔させるたの外國の御機嫌を取るとは結局支那の侵略に對する抵抗を成功させないであらう。此等愛國者は國家の爲め彼等自身を團結組織せねばならぬ。そして多くの方面に於てこの事をなすこと

臺灣總督官房外事課

が出来る。第一に彼等は娛樂と享樂のため彼等により費されるすべての金銭をこの目的の爲め有効に費すことが出来る。そしてこの行爲を香港植民地の永久的居住者のみならず、昨今植民地へ避難した他の支那人に對しても諒々と勸説することの出来る團體を結成することが出来る。これらの節約を以て支那は支那が日本に對する戦争に於て成功するに必要なすべての飛行機を購ふことが出来る。香港避難民の多數により示されてゐる富は、それが國內に保留されたならばそれは數年間首尾よく戦争を繼續することが出来る程のものである。此等のすべての富は固定して居りそして國家はそれを用ふることを得ない。投資には常にある制限が存在するから所有者自身がそれを事業資金に用ゐることが出来ない。

故に若し國家が少くともその一部分を獲得することが出来るならば支那の現在の困難は可なり減されるであらう。何故彼等は

後日支那が戦争から脱出することが出来る時に取戻すことが出来るやうにこの目的の爲に彼等の富を捧げることが出来ない。若し國が獨立を保つならば彼等は常に彼等の事業を行ひ、その事務を適當に繼續し、現在戦争に投資者れる彼等の金銀を取戻すことが出来る。しかし、若し領土が日本の管理下に渡るならば彼等の運命は如何であらう。彼等が爲すことの出来る他の一つの事は軍隊に参加し、彼等が戦線へ送らうと欲してゐる無知な人々より遙に大なる熱心を以て國家のため戦ふことの出来る聰明な愛國者の團體を結成することである。愛國觀念に燃ゆる分別ある聰明な人々のグループとして彼等が戦ふことを要求してゐる農民苦力よりは戦争を上手にすることが出来る。彼等は實際的の愛國精神の福音を宣傳流布しながら村落から村落へ行くことが出来る。そして斯くして國を擧げて日本に對する一丸の武装陣地となし、蒋介石により約束された終局の勝利を

臺灣總督官房外事課

國家の爲に發保することが出来る。若し國內の民衆が心から蒋介石を支持するのでなければどうして勝利が可能であらうか。彼等が爲すことが出来る良い仕事の今一つは村落へ行き、若干の金銀を農業及び現在戦争を繼續するに最も重要な交通機關に投資することである。支那は全國を擧げて戦つてゐる。そして食糧の供給は交戦部隊に對しても、戦線の背後の者に對しても供給せられる主要な事である。彼等はそれ自身のみならず國家を利することが出来る。

故に若し香港の支那の愛國者が此等の若くは其他の國家的仕事を爲すならば彼等は新聞紙に彼等の姓名を麗々しく並べるより以上に國家に奉仕することが出来るであらう。若しも彼等が國家に對し眞の奉仕を爲すならばこれらの文筆的愛國者が彼等の姓名を公衆の前に自分から並べやうと試みるより、新聞紙それ自身が彼等の仕事を稱讚してその紙面を充すであらう。

華僑

(馬尼刺)

一、福建攻略の尖銳化一七ヶ所より上陸の企圖

(福州特約通信) 一敵は我廈門島を占領後、漳州、泉州及び福州各大陸地に對し、果して侵略するの企圖あるや否は實に當前の注視に値する觀點である。先日福州記者公會は基督教青年會に於て總會を開催の時、米國教會の宣教師、學生及び米國領事華瑞德(譯音)も招待を受けて列席したところ、席上米領事は日本は精かに華南侵略の陰謀を蓄へてゐるが其の目標は福建よりも廣東に在りと喝破した。然し最近當地當局の手により檢舉した重要漢奸(姓名の發表を差問へる)の供述に依ると、敵の福建を企圖する野心は蔽ふべくもないことと、現に多數漢奸を奥地に遣はして活埋せしめ居ると同時に、かつて福州に在留したことのある漢奸浪人を連江、寧徳、霞浦一帶の閩東沿海に密派し、同地の親匪者部に向つて反亂方を煽動せし、敵海軍は閩江口の媽祖澳、

臺灣總督官房外事課

の梅花松下、惠安の崇武、莆田の三江口、同安の澳頭及び東山、海澄七ヶ所より上陸する意圖であると稱してゐる。

最近連江縣下の南竿塘附近より偽「愛民會」を檢舉、漢奸共黨三十餘艘が出没し開砲恫喝に及んだり、長樂の松下に碇泊せる航空母艦より飛行機四五機若しくは七八機放して矢繼早に福州の空軍を退うする等何れも福建侵略の豫備的動向であると肯かれるものである。(六・二三「新聞日報」)

二、福建に傷兵運輸站三十一ヶ所指定さる

(泉州通信) 本市惠世醫院は英人の經營にして、創立以來既に五十餘星霜を閱し、毎年の經費は廉價なる藥代を徵取する外、大部分は英國長老教會の補助を仰いで居つた。

院長羅勵亡、醫務主任裴禮儀(何れも譯音)兩英人は、

タイプライター用紙

回同院を「中英臨時後方醫院」に解体並に南安、九都、永春三ヶ所に分院を開設した。

分院開設と同時に経費は必然的に膨脹され、加之閩南一帯は近き将来に激烈なる抗戦を免かれないところで、戦事爆發の時には藥品の需要も浩漭なるを以て、豫め之を豊富に買備へるの必要を感じ、羅、裴兩英人は本國長老教會に莫大の補助金を申請するに及んだが、尙地方人士の協力合作を乞はんが爲、先日晉江縣長何震、黨部指導員莊澄波、國民黨大先輩蔡望山及び紳士吳增、葉青眼、黃紫霞等十數人を同院に招致、協議の結果地方人士は極力附金を募集し助成することを約して別れたとの由である。又省當局は傷兵運輸站として左記三十一ヶ所を指定し、毎站到發乘五十臺乃至百臺を備置き、一臺に付壯丁三名宛を待機させてゐると。閩候、古田、建甌、南平、龍岩、永春、連城、晉江、南安、惠安、莆田、仙遊、安溪、同安、長樂、福清、連江、羅源、寧德、霞浦、海澄、龍溪、南靖、長泰、德化、大田、永安、沙縣、寧浦

臺灣總督官房外事課

建陽、邵武、以上三十一站。

(七・四一新聞日報)

三、粵東市の保衛網鞏固—正規軍の外に武装壯丁隊十數万

(廣東通信) 一 廣東市は華南の重鎮にして之を完全に保衛することが出来れば、大廣東省否大中華民國まで保衛し得ると云ふ緊密なる連帶關係を有してゐる。故に中央、廣東兩當局は廣東市の保衛強化に對しとても力癩を入れて居る。正規國軍の外に民衆自衛團隊は市長會養甫は余、吳兩廣東省軍政長官の意を承け、永洩さず保衛網を張つてゐる。即ち近郊各郷の民衆抗日自衛隊には一率に銃器を發給し、之を編隊の上綿密に見張警備の任に當らしめ、已に訓練を施した壯丁は之を國防隊伍として編成し、軍需補助として市内鞏固の責を負はせてゐる。之等訓練を受けた市區の壯丁は第一、二、三、四期を合せて十万人以上を算し、何れも三ヶ月間軍事上の作戦技術及び政治的訓練を受けてゐるから、民族

タイプライター用紙

抗戦の意義に對しても充分なる認識を有してゐる。最近敵機の襲撃なる空爆に對する彼等壯丁の目覚しい活躍を観れば、實に磨京市保衛上未頼母しいものがある。

今回之等壯丁にも夫々新式の銃器を交付したから、万一戦事が起れば之等英身の武装壯丁隊は、必ず正規國軍と協力して戦場に奮闘し、敵人の南侵迷夢を打醒すであらうと期待されてゐる。

尙敵機の來襲で商店の閉鎖及び市民の避難をおびただしく出して文別すべき壯丁も激減を來したが、市當局は弛まずして第五期の壯丁訓練を續行し、同時に少年團と青少婦女團の訓練を催してゐる。

(七・二一新聞日報)

臺灣總督官房外事課

(爪哇)

一、目前の戦局

新報六月十七日の社説に首題の見出を以て次の如く論評してゐた。今回の中日戦争を、八・一三上海戦事爆發より南京陥落までを第一期、南京陥落後徐州放棄までを第二期となし、現在已に第三期戦に入つたと劃分することが出来る。第一期戦の敵軍の目的は我首都の占領に在り、第二期は津浦線の貫通、今は第三期戦武漢侵略の魔手を伸して來た。

武漢は南北の要衝に當り、水陸交通非常に便利な所である。軍事政治的方面に於ては事實上の中央政府所在地にして、軍事的には抗戦大本營が設けられてゐる。敵軍は急速に我軍の實力を潰滅せんと欲する故、我方の心臓部たる武漢の攻略に汲々とし

臺灣總督官房外事課

一部は隴海線に沿ふて西進、已に蘭封、開封を占據して鄭州に向ひ、一部は中部河南と北部安徽より西南に向つて許昌と信陽に於て隴海、平漢兩線の連絡を遮断せんと企圖し、同時に日艦は蕪湖より溯江西上、而して陸海空軍を以て武漢を會攻し其速戦速決の目的を果さんとしてゐる。北部河南には廣漠なる平原があるから敵軍最初の進軍は迅速を極めたるも、黄河決壊後滔滔たる洪水が東南に向つて氾濫し、その爲敵軍は作戦計劃上に一大打撃を蒙り、隴海線西進の部隊が我軍を威嚇すること能はざるのみか、却つて我軍に悠々奮々たる防禦工事の準備機会を與へて呉れた。

敵軍は前述の通り北部河南の平原で一大頓挫を來した爲、今は其鋒先を長江一帯に轉じて向けた。六月九日より空軍排撃の下に日艦百三十數隻は蕪湖より溯江、長江兩岸より再三上陸を企圖したが我軍の撃退で拮抗中、十三日に至り我軍は始めて安

タイプライター用紙

を抛棄した。敵軍が執拗に貴池より上陸せんとする主要目的は、一は浙江、安徽の省境宣城、廣徳、寧國一帯に活躍してゐる。我正規軍と遊撃隊を威壓せんとし、他の一は馬當封鎖線を繞つて九江に進攻し、然る後江北の敵軍と併進して武漢を攻落する意圖である。其安慶に上陸した部隊は、桐城より南下の敵軍と會合して潛山を略取の上、太湖、松宿、黄梅を經由湖北省境に侵入せんと謀り、別に一支隊を以て合肥、正陽關より六安、壽始に向はしめ、麻城を経て武漢を圍攻する魂膽である。然るも武漢は我方の以て敵軍主力を殲滅する豫定戰場にして、徐州大會戦後より「保衛大武漢」の口號を高唱し、數ヶ月來の準備で已に我國の重疊堡壘に化した。地勢に就いて見ても、安徽、湖北兩省との省境には大別山と霍山が自然の藩屏を形成し、武漢附近には山嶺重疊、湖沼交錯と云ふ様な天險を具し、一として日軍新式軍器の威力を減殺せしめ、其主力を殲滅するに好

臺灣總督官房外事課

適せざるところなき次第である。殊に長江兩岸は堅牢なる砲壘を以て固められ、馬當封鎖線以上には障礙物がとりわけ多く、敵艦は未だ武漢を脅かすに足らないものである。

蔣委員長は嘗つて云つた「中國が持久抗戰の最後の決勝中心は南京將又各大都市にも在らずして、實に全國の鄉村と廣大強固なる民心に寓してゐると。換言すれば廣大なる遊撃戰を發動して全國全同胞をして悉く抗敵の戰士たらしめ、至る所で二六時中絶間なく抗戰、以て敵人を寸刻不安の恐怖に陥れ、占領地に於て軍費糧食を徵發するの邊なからしむに在るものである。この状態を持續延長して行けば、我方は其時間を藉りて新總軍、新兵器の成長が期待せられるに反し、敵方に於ては戰事持久するれば、經濟は枯渴し、軍心民心は離反され、最後の勝利則ち我れに歸すべきものである。

(六・一七一「新報」社説)

タイプライター用紙

比律賓

一、日支事變一周年に際する蔣介石のステートメント
(漢口發、A・P) 一、支那事變一周年紀念日に當り、抗日軍總指揮官蔣介石は二つのステートメントを發表した。
一つは友好關係國に與へたものであり、他は狂鬼の如き軍閥の魔手に踊らせられてゐる日本國民に對して爲されたものである。

友好國の國民に對しては同將軍は四億の同胞に代つて之等友好國の日本に對する再三再四の抗議、非難や日本商品に對するイコント及び輸送拒絕、日本の財政的援助拒否等種々の形による同情と援助に對して感謝してゐる。過去一ケ年間に於ける現代の文明を破壊する日本軍のパーバリズムを非難し、「此の飽くことなき狂暴は支那のみで留まることなく、勢の赴く所、如

臺灣總督官房外事課

何なる方面へ波及するやも知れず」と警告してゐる。
日本國民に對しては小數軍閥に踊らされることなく、直ちにその侵略的政策を變更すべき事を要望し、支那國民が如何に平和を愛し、又祖先の古き文明、祖先の墳墓、田園、都市等を愛してゐるかを強調してゐる。日本軍閥がその侵略戦争を繼續する限り、支那は飽くまでも抵抗を續けるであらう」と述べ、「此の流血の慘事を阻止せしむるものは、日本國民自身の手によるより他にないと結んでゐる。(七・七一)

二、風雲を呼ぶ北京地方

(北京、七月六日) 一、昨年七月七日蘆溝橋に其の端を發してより日支間の戦鬪一周年の到來は風雲を呼んでゐる。即ちゲリラ軍は益々其の數を増し北京に集中し、日本守備隊を攻撃するであらうと云ふ噂が専らである。之れがため日本守備隊は北京

タイプライターの用紙

を去る十五哩の地點に柵を築き其の進撃を阻まんとして居る。昨日より北京の門戸は閉され入口の出入を嚴禁され國民は戰々々々として居る。

(七・七一P・H)

三、米國の支那援助

一上海。七月六日—IU・P通信に依れば今般赤十字社は共産黨と手を結んで居る。米國の一教授アヂエンス・スメトリイ氏より手紙を受け取つた。其の中に次の如きことが發表されて居る。

「米國赤十字社は支那軍人の救助策として數十台の傷病者運搬車を送り且つ戰地に病院を設立する求めに應ずる」。

現在支那衛生隊は不充分なるがため支那を侵略する暴虐なる日本人に對抗して米國は直接行動に出て支那を援助することとなる。

(七・七一P・H)

臺灣總督官房外事課

四、駐在獨逸顧問は「支那は戰に勝つ」と

一東京。七月六日—支那駐在の獨逸軍事顧問二十五名は昨日馬尼ラの途に上つた。之れにつき支那當局では次の如く述べて居る。

「吾國へ向け歸國する人々に對して我々支那人が切望するところはこれまで日本人に依つてなされたる幾多のデマに惑はされることなく良く現在並びに將來の極東情勢に就いてありの儘のことを本國政府に告げんことを望む」。

自出發に際し大元帥蔣介石の代表者を始め多くの主だつたる支那人に見送られ實に盛大を極めた。

出發に先立つて獨逸將軍 (Major General Von Frikkehavsen) 氏の如く述べて居た。即ち私は支那が戰に勝利を得るものと確信する。私は將に此の地を出發せんとして居る。然し心は永久に支那にある。日本は戰にも失敗を喫し、平和を求めることとなる。

マイニクイ用紙

失敗することとならう。ここに於いて私は全支那人に對して諸君等があくまでも蔣介石の指揮の下にあらんことを望む。尙同氏は支那人が過日日本航空母艦を撃沈したことに就いて讚辭を表した。

(七。六一P・H)

五、楊子江の氾濫は支那軍に有利ならん

(上海、六月二十四日) 支那側の指揮官達は本日「楊子江の洪水は日本軍の士氣を沮喪せしめ且つ滿洲國に於いては不穩状態を現出して居る」と述べ、在漢口一記者は「楊子江の氾濫は益々其の度を増し遂に太湖附近にまで水は侵入して居る之れが爲め一舉に支那軍を攻略せんものとして大仕掛な作業をなして居た日本軍を困惑ならしめて居る。然るに之れに反して支那軍の地位は益々堅固なるものと成りつつある」と云つて居る。

(六。二四一P・H)

臺灣總督府

六、海南島に於ける支那軍の活躍

(上海、六月二十四日) 十隻の佛艦は日本軍が上陸を試みんとして居る海南島附近に碇泊して居るとの報に接し佛國軍事當局では之れを否定し、現在何等の通知をも受け取つて居らなると發表して居る。

(香港、六月二十四日) 支那側の報ずる所に依れば、海南島に上陸せんとしたる日本軍は昨日支那機關銃隊のため撃退された。然し日本軍は此の地に船艦を増し海口より上陸せんとして居る。

(六。二四一P・H)

七、米國海軍、日本に痛棒

(上海、六月十三日) 米國亞細亞艦隊の總指揮官ハリイ・イヤーネルは楊子江にある外國船は日本の要求に聽従すべしとの通牒を受け取つたが之れを本日拒絶して居る。ヤーネルは日本

海軍側の警告は外國人の生命、財産に對して日本側が責任を担却したものと考へられまい。次いで米國領事よりの意見を次の如く發表して居る。

(一)米國海軍は揚子江を巡航する自由の權利を保有すること。

(二)米國海軍は日本の要求であるところの「船艦に深紅色印を他國と異なる色を塗る」ことは考慮に入れるわけには行かない。

之れに就いてヤーネルは現在米國船舶は皆白色で塗られ、大なる國旗は一別して他國と區別される筈である。

更に彼は次の様なことを強調して居る。

「米國の漢口より撤退することは重要なることであり、恐らくそれは實行に移されるものと信ずる」。

斯くて斯の報告に接した日本は相當惱まされて居る模様であると。

(六〇一三I P・H)

臺灣總督府

八、比律賓航空界の躍進

比律賓會の通過をみた商業用に使用さるべく飛行場の設立費十萬比は比律賓航空界の今後の躍進を期待されるものである。此の飛行場設立のため五、六ヶ月前より仕事が始まつて居る。尙場所はマニラの郊外サン・アントニオ・アベドの近くに在る Dewey Boulevard の村落であり、三ヶ年計畫を以て設立されることとならう。

(三八・五I P・J・O)